

川崎市議会議員

松川 正二郎

まつかわ しょうじろう

令和2年12月議会報告

子ども 老後 防災 防犯 交通

そのつばやきを政策に。

あんしんNo.1 の中原区へ

松川正二郎プロフィール

昭和43年生まれ、小学5年生の父 共働き世帯
城西大学経済学部卒 カリフォルニア大学リバーサイド校留学
復興大臣 衆議院議員 田中和徳 元公設秘書
家族：妻、長女（小学5年生）

NPO 法人 防災・防犯ネットワーク理事・中原支部長
中原区町内会連絡協議会理事 中原区防火協会理事
中原区自主防災組織連絡協議会理事
新丸子町内会会長 中原消防団丸子分団班長
丸子地区社会福祉協議会理事 丸子地区商店街連合会顧問
中原中学校区地域教育会議顧問

TOPIC 1 川崎が誇る光触媒の技術

去る令和2年5月、新型コロナウイルス感染予防のため、川崎市名誉市民であり、初代東京大学特別栄誉教授、東京理科大学栄誉教授でもある藤嶋昭先生より、光触媒空気清浄機12台が市に寄贈されました。さらには、藤嶋先生が理事長を務める東京応化科学技術振興財団の設立母体である東京応化工業株式会社より同じく54台が寄贈されました。

福田市長も、「医療機関等で有効に利用したい」「川崎が誇る光触媒の技術を広く伝えるきっかけにもなる」と謝意を述べました。

光触媒技術といえば、東工大と奈良県

立医大、神奈川県立産業技術総合研究所の研究グループにより、**可視光応答型光触媒材料による新型コロナウイルスの不活性化**が確認されたというニュースが、去る10月に報道されました。光触媒材料に光を照射することで、1時間で99.7%、2時間で99.99%以上のウイルス量の減少が見られ、暗所においても4時間で検出限界以下までのウイルス量減少が確認されました。

川崎市とも関わりの深い藤嶋先生の発明による光触媒技術を、川崎市内の企業とマッチングさせることによって、「川崎発」の新たな新型コロナウイルス

への**予防策**を生み出すことも可能かも知れません。本市では、新型コロナウイルス感染拡大に伴う「新しい生活様式」対応研究開発補助金といった制度も用意しているため、この点につき議会での質問として採り上げました。

市では大手企業の開放特許を中小企業の製品開発や新事業展開にマッチングする支援を行っており、光触媒材料「チタンアパタイト」含有の高機能石鹸や抗菌塗料など、**市内中小企業による光触媒技術の実用化に向けた支援**を行っており、今後ともこうした活動を継続していく旨、答弁を頂きました。

TOPIC 2 商店街支援とITリテラシー

去る11月25日、商店街魅力再起支援事業補助金に関する公募要領が公開され、公募が開始されました。しかしながら、折角にこうした地域団体に対する支援策が実施されても、応募する側の視点からしますと、複雑な内容を熟読し、補助金利用のための具体的なアイデアを創出し、さらに**煩雑を極めた具体的な申請**をこなしていく、というように幾重もの障壁が存在しています。実際、国の家賃支援給付金などについても、申請が複雑過ぎるために**執行率が低止まりしている**という

ニュースなども聞こえてきます。例えば、静岡県などでは商工会議所が主体となって、補助金のためのアイデア出しから申請書の作成までをサポートするなどの手厚い支援が行われているようですが、大都市圏では商工会議所からコンサルタントに丸投げされ、**手数料や成功報酬といった、本来の補助金の趣旨からはズレた負担**が生じているとも耳にします。持続化給付金についても、オンライン申請しか手法が存しないため、パソコンすら触ったことがないといった層が申請を

行えないといった問題点が浮き彫りとなっています。新型コロナウイルスの状況下、非接触やデジタル・トランスフォーメーションということが今まで以上に言われる中、**ITリテラシー格差に基づく各種の問題**にも目を向けていく必要があります。

以上、地域団体の支援に際しましてもITを含めた各種の支援の充実が望まれるところです。この点、引き続き行政に働きかけて参りますので、皆様のご意見やご要望などもお気軽にお聞かせください。

TOPIC 3 「新型コロナ禍」の教育環境状況

12月の本会議では、各会派よりコロナ下での教育状況に関する質問が多く採り上げられました。答弁内容をざっくりとまとめますと、臨時休校等の措置がとられた今年度においても例年の約88%程度の授業日数の確保が可能であり、9割を超える学校からの回答では、計画通りの学習を進められているとのことでした。

教育格差？

しかしながら、とあるシンクタンクの調査では、臨時休校後、一週間あたりの**子どもの総勉強時間が全体的に38.5%減少**しているという結果が報告されています。特に成績の低い子どもの勉強時間の低下幅が大きく、週当たり20時間も減少しているそうです。新型コロナ以前から、低所得世帯やひとり親世帯の子どもの学力が低い傾向にあるということが指摘されてきましたが、これらの結果はその格差が新型コロナウイルスの状況下で拡大しているということを意味している可能性があります。また、別の調査では、休校によりもっとも困ったことのトップは「**学業**」で37.4%を占め、**58.6%が休校措置の結果として「教育格差を感じる」と**回答したといえます。

こうした調査結果を見ますと、「学校側」の9割が計画通りの学習を進めていると判断していたとしても、「**子ども側からの視点を欠いた、「子ども不在」の判断**」になっているように思われてなりません。また、この一斉休校という異常事態があったにもかかわらず、教育資源の適正配分に関するまともな現状把握調査を実施した自治体はほとんどないといえます。

行政としましては、子に応じた指導の充実、きめ細やかな観察による学習状況やこころの状態の把握、といった支援策を周知していくとのことですので、皆さんからの様々な声もお寄せ頂きつつ、今後も状況を見守って参りたいと考えています。

GIGAスクール

こうした中、いよいよ「GIGAスクール構想」が具現化され、小中学校ではChromebook、特別支援学校ではiPadが貸与されること等のお知らせが保護者の皆さんにも届けられました。自分専用の端末だと、期待に胸を躍らせている児童生徒も少なくないのではないのでしょうか。新型コロナの状況下、通常教育の補

完という意味でも、小さいながらも良いニュースです。

他方で、市の教育部門におけるICTのリテラシーについては、少々不安の残るところではあります。市では専門的知見を有する外部人材や、民間企業の協力も得ながら今後に渡ってICTスキルの上昇、人材育成に取り組んでいくとのことでした。

心のケア

私、松川も小学生の娘を持つ身ですが、娘の通う小学校の近隣小学校では、「**クラスが荒れてしまって分散して授業を行っている**」、「**今年はケガをする児童が多い**」というような声を耳にします。子どもたちにとっても「異常」な状態が続いている中、綿密な心のケアを行っていくことの必要性を感じています。議会での質問に対しては、児童生徒指導連絡会議において学校再開以降の生活の中で生じた課題などについて各校での事例を共有し、対応策を検討している、信頼関係を構築した上での相談体制の充実を図っていく、といったような答弁は得られましたが、より具体的なところまで踏み込みつつ、この問題についても注視して参りたいと思います。



アンケートにご協力ください

下記にご記入いただき、**FAX:044-330-1619** (松川正二郎政務活動事務所) にお送りいただくか、QRコードを携帯電話でかざしていただきますと簡単なフォームで送信いただけます。

Q1

令和2年度、松川正二郎が現職の市議会議員として是非ともとりいれるべき施策等ございましたら、ご自由にお書きください。

Q2

新型コロナウイルス、令和元年東日本台風に対するご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

こちらのQRコードから簡単にアンケート送信ができます



ご連絡先

松川正二郎政務活動事務所

〒211-0005

川崎市中区新丸子町694-101

TEL: 044-328-9619

FAX: 044-330-1619

川崎市議会議員控室

〒210-8790

川崎市川崎区宮本町1

川崎市役所 第2庁舎7階

matsukawashojiro@gmail.com